

HAMON Vol.12

自然と生きる人の情報誌

Photo by 小前昭二

contents



Special Thanks

団体紹介 ①【大分】 野外学校Feel Our Soul 代表 戸高 雅史氏 . . . 1

②【香川県】Free Cloud 代表 小前 昭二氏 . . . 2

③【岩手県】うみと私と 中島 崇氏 . . . 3

プロジェクト紹介 『シャチュラジ』 . . . 4

大学研究紹介 『実践と研究の往還から考える自然体験の可能性』 . . . 5

仙台大学体育学部子ども運動教育学科 講師 庄子 佳吾氏

コラム一滴 『自然とのつながりが未来を拓く』 . . . 6

一般社団法人あぶくまエヌエスネット 代表理事 進士 徹氏

編集者コラム 『沖縄から波紋を広げる』 . . . 7

走林社中 運営スタッフ 小林 政文氏

編集後記 HAMONプロジェクトメンバーより . . . 8

団体紹介① 野外学校 Feel Our Soul 代表

戸高 雅史氏
とだか まさふみ

自然との共振と自分の感覚

九州と富士山、そして葉山で野外学校を開いている、Feel Our Soul 代表の戸高雅史氏にお話を伺ってきた。

▼現在の取り組み

ファミリーや子どもたちを自然の中へ誘う自然学校を開催している。メインの富士山麓で行うプログラムは、山に入るが登山を行うわけではないと戸高さんは語る。自然の摂理、秩序を感じるまま、心のままに受け止める。そうすると子どもはどんどん自発性の扉を開く。ベールが剥がれて命の源泉に立ち戻らせる。家族が日常で新しいスタートに立てる機会となる。自然の中で過ごす時間は、まるで自然とダンスをするような感覚だと語る。

▼ヒマラヤでの経験

コンテンツベースでの話ではなく、人の感性にアプローチする戸高さん。哲学のルーツはどこにあるのか。幼少から大分県の自然豊かな場所で遊んで過ごした戸高さんは大学で福岡へ出て、探検部へ入部する。大学二年生の時、ちょっとしたきっかけで山岳小説で有名な新田次郎の『孤高の人』と出会い登山にのめり込むようになる。大学院生の時には初めて

野外学校 FOS

戸高 雅史氏



のヒマラヤ遠征を経験し、雪崩に巻き込まれたが九死に一生を得る。もう辞めようと思った登山だが、どうしても辞めることができず、大学院修了後には本格的にヒマラヤ遠征を行う。一〇年間ヒマラヤ遠征を行いブロードピーク縦走やPS単独無酸素頭頂などを成し遂げた。大きな転換点となったのは、チヨモランマ北西壁を登攀中のビバーク時であった。ふっと山から「もう登らなくていいんじゃない？」と声をかけられたと話す。そして下山し日本での活動を開始。極限の環境だからこそ感じることでできた一種の悟りのようなものだろうか。一方、蟻をじっと眺める三歳の子どもにも同じものを感じたと語る。自然との共振（ダンス）はシンプルに自然環境の中にあるのでしょうか。

↓ FOS の活動風景



→ ヒマラヤ遠征



▼取材者：森本 弘太氏

一般社団法人センスオブネイチャー 代表理事

神奈川県出身。日本アウトワードバウンド協会(OBS)で冒険教育に出会ってから野外教育の道へ。三年間長野県のOBSで勤務の後、カナダのキャンモアへ。カナディアンロッキーを中心に夏は山岳ガイド、冬はオリラガイドとしてガイドینگを学ぶ。ニュージーランド、クイーンズタウンでの半年間の生活のあと日本へ。福岡YMCAでキャンプ事業部のディレクターとして二年間勤務後、二〇一七年四月エンカレッジ(株)に入社し、企業研修を展開。Sense of Natureの運営責任者として全プログラムを統括・指導する



団体紹介② Free Cloud (フリークラウド)

代表 小前 昭二氏
こまえ しょうじ

瀬戸内海に『楽園』あります！

香川県西部の仁尾町を拠点に、シーカヤックやSUPのツアーを通年開催し、またキャンプサイトの運営を行っております。「Free cloud」さんは、まさに「楽園」！

香川に来られたら、一度は行っていただきたいオススメの場所の一つです！

▼Free Cloudさんのオススメは？

仁尾町は瀬戸内海の燦灘に面し、潮の流れの緩やかな海域です。フィールドに精通したガイドが安全に楽しめるツアーを実施しています。シーカヤックツアーでは多くの場合、沖合約二キロの距離にある無人島「つたじま」を目指し、花崗岩の岩肌がつづく海岸を漕ぎ、瀬戸内の自然を直に体感できます。条件がそろった時だけ入れる洞窟は冒険的要素が満載！また、瀬戸内海に沈む夕日を海上から眺めるサンセットSUPトリップは、最高の色の空と海に包まれる最高の体験です！

▼最近頑張っていることどんなことですか？

二〇年以上のガイド経験をベースに、近年は後進の育成にも携わっています。近年注目を集める「海ごみ」の問題についても、七人乗りの巨大なSUPから「ごみ釣り」と称して行うなど、楽しみながら関われる取り組みを模索中です！

Free Cloud <http://www.free-cloud.jp>

<https://www.freecloud-beachcamp.com/>

仁尾サンセットピーク

<https://www.nio-sunsetpeak.com/>



瀬戸内海での
SUP体験の様子

▼取材者：ライジャケサンタ

もりしげゆうじ
森重裕二氏

「子どもたちにライジャケを！」代表

庵治石細目「松原等石材店」三代目

「子どもたちにライジャケを！」の活動を二〇〇七年に開始。

「水辺に近づく子どもたちには『ライフジャケット』を着けさせましょう！」というメッセージをひたすら発信しています。普段は、香川・高松で、庵治石でお墓さんを作る職人として修行中。

絵本「かっぱのふうちゃん」著者。Voicy

「みんなで子どもを守るラジオー」パーソナリティ。NHK「サラメシ」出演。

MJC マリン賞「安全環境部門」受賞

日本キャンプ協会キャンプミートイング「MIP賞」受賞

JOLA(ジャパンアウトドアリーダーズアワード) 2022 優秀賞&特別賞受賞



団体紹介③ うみと私と

なかじま
中島 崇さん

「うみと私と〇〇」の物語

▼滋賀県から岩手へ

二〇一九年七月、滋賀県から岩手県山田町へ移住した中島崇さん。地域おこし協力隊としての活動を経て、二〇二三年一月に「うみと私と」を立ち上げました。彼の活動は、地域振興や観光といった枠を超え、彼自身の生き方に深く根ざしています。

▼名前に込められた思い

「うみと私と」という名前には、山田町の美しい「うみ」に触れ、参加者一人ひとりが自分自身である「私」と自然とのつながりを感じ、その先にある新たな発見を見つけ出してほしいという思いが込められています。活動内容としては、シーカヤックやSUP、無人島キャンプのアテンドなどを通じて、参加者に自然との触れ合いを提供しています。特に、山田湾の穏やかな海はマリンスポーツに最適な場所であり、その透明度の高い水質と安全な環境が魅力です。

▼地域とのつながりと参加者の声

中島さんは、地元の牡蠣小屋の手伝いやウニ漁などを通じて、地元の人々との交流を深めています。この夏には、牡蠣小屋のおぼちゃんたちがシーカヤック体験に来る予定で、地域の人々とのつ

ながりが活動にさらに豊かな色を加えています。また、参加者からは「沖縄の海よりも美しい」との声もあり、地域の魅力を最大限に引き出すガイドとしての力量が証明されています。

▼中島さんの生き方と哲学

中島さんは「日日是好日」を信条に、生きる喜びを体現しています。生きていけるだけの収入があれば十分、贅沢は不要だと語り、シーカヤックや自然に触れることで日々の幸せを感じるその生き方は、まさに自分らしく生きることの重要さを私たちに教えてくれます。

▼自然と人がつながる先に

中島さんの活動は、単なる観光や地域振興にとどまらず、彼自身の生き方を反映したものです。シーカヤックやSUPを通じて地域の魅力を体感し、参加者自身の人生と向き合うきっかけを提供しています。「うみと私と」は、その名の通り、海と人がつながる場所を提供し、自然との調和を大切に活動が続けています。



うみと私と

<https://www.instagram.com/umitowatashito/>

▼取材者：伊藤 聡 氏

さんつな 代表

東日本大震災で被災したことをきっかけに、二〇一一年三月から岩手県釜石市を拠点に災害支援活動をスタートしました。ボランティアコーディネートを中心に、被災地の支援活動に携わり、地域の復旧・復興を支えるために尽力しています。それらの経験を活かして防災士としても活動し、災害時に必要な知識とスキルを伝える役割も担っています。

また、サバイバルスキルを身につける体験プログラムや高校生を対象にした防災教育の指導に加え、マリンスポーツや自然体験を通じて、災害時に必要な適応力を磨く体験活動も実施しています。 <http://santsuna.com/>



走林社中 プロジェクト紹介 シャチュラジ

走林社中で二〇二五年度から新しい取り組みとして「シャチュラジ」がスタートしています。毎週月曜日に配信しており、走林社中のメンバーが日本全国で自然の中での体験活動に取り組んでいる方々をゲストにお招きし、お話ししていくラジオです。

パーソナリティは、各回走林社中の幹事とモモの部屋運営スタッフが務めます。

自然学校の指導者、大学教員、地域で活動するNPO職員、アウトドアに関連する企業、環境教育実践者など、毎回さまざまな立場のゲストを迎え、活動の背景や思い、取り組みのリアルに迫ります。

エピソードの中では、ゲストの活動の紹介だけにとどまらず、「なぜこの道に進んだのか」「どんな壁があったのか」「これから何を目指しているのか」など、キャリアや生き方を掘り下げてお聞きしています。現場

で感じる喜びや課題、迷いも等身大で語られるインタビューは、同じフィールドで働く人々にとっても大きな励みになるはずです。

番組は走林社中ホームページからもお聞きでき、Spotify、Apple Podcasts、Amazon Music、YouTube など主要な音声配信サービスでも聴取可能です。通勤途中の電車の中、夕食をつくる間に、ちょっとした隙間時間で聴けるコンテンツとなっています。自然の中での体験活動に取り組んでいる方、ご興味のある方、より多くの方に届けられるよう配信していきますのでぜひお聴きください。

合同会社くじらのもり

代表社員 白井 健

千葉県南房総市をフィールドに親子向けアウトドアツアーの開催、地域の子どもたちへ自然体験活動の実施等を行っています。



013 25/6/30 「参加者から職員へ〜ワンパク大学でのぼくの現在地」【ゲスト：野外教育事業所ワンパク大学 岩木将人さん】



011 25/6/16 「おさかな小学校での活動と今後の展望」【ゲスト：：櫻井ひなたさん／聞き手：株式会社Think&Camp 原田順一、株式会社ノッツ稲松謙太郎】



おぼえよう！よい子の水辺のおやくそく
「かっぱの“お・さ・ら”！」



学校や園で使える水辺の安全教育リーフレット作りました！
指導に使える資料も満載！ぜひご活用ください！
<https://lifejacket-santa.com/yoikonooyakusoku/>



思いはただ1つ…子どもたちの命を守ること。「子どもたちにライフジャケットを！」

大学研究紹介

実践と研究の往還から考える自然体験の可能性

宮城県の農家で育った私は、四季折々の自然と向き合い、身体を使って暮らしを営む日常が学びの場でした。この原体験から、現在は幼児期の自然体験が持つ可能性について、**森のようちえん「ふおれぷれ！」**の実践と研究を通して探求しています。

「今の子どもは体験不足」と言われますが、子どもの自然体験の「量」は、**国立青少年教育振興機構の調査**によれば、2010年代からコロナ禍を経て、減少傾向を示しています。一方で、成人を対象にした**別の調査を再分析**したところ、子どもの頃の自然体験の頻度は若い世代ほど減少傾向にあるという結果も見られました。

これらのデータと、**私自身の研究**や実践からは、体験の「量」

だけでなく、「質」や「多様性」という視点が不可欠であると考えられました。これを踏まえて、森のようちえん「ふおれぷれ！」では、季節の変化や天候の変動といった自然のダイナミズムをそのまま体験できる環境づくりを重視しています。そして、多様な自然体験が子どもたちの探求心や協調性、レジリエンスを育むという仮説のもと、活動を観察・記録、分析しています。

「ふおれぷれ！」は子どもたちの育ちの場であると同時に、保育者を目指す学生の学びの場でもあります。予測不能な自然環境下での安全管理や多様な個性への対応など、実践を通して理論だけでは得られない知見が蓄積されています。

この実践と研究の往還から、自然体験の新たな可能性を模索しています。ご関心のある方は、ぜひご連絡ください。

▼寄稿者：庄子佳吾

(Keigo Shoji)

仙台大学体育学部子ども運動教育学科 講師

宮城県仙台市出身。千葉大学教育学部卒業、東北大学大学院教育学研究科修了。国立青少年教育振興機構職員、桜の聖母短期大学講師等を経て、二〇二四年四月より現職。

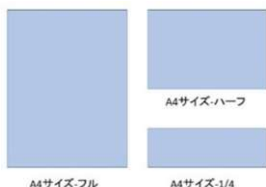
専門は青少年教育、野外教育、自然保育。

自身の原体験と、森のようちえん「ふおれぷれ！」等の実践研究を通して、幼児期の自然体験の意義と可能性を探求している。



広告スポンサー大募集

10,000円から広告スポンサーになることができます。
お問合せはこちらのメールに、「広告スポンサー希望」と明記の上ご連絡ください。



A4サイズフル 4万円(税込)
A4サイズハーフ 2万円(税込)
A4サイズ1/4 1万円(税込)
年に4回の季刊誌として発行しています。
電子ジャーナル版での発行です。
デザインの入稿、デザイン依頼などは問い合わせをお願いいたします。
追って、担当者より返信いたします。
HAMON編集部



カラーで！リンクも貼れます！

一滴

コラム

▼寄稿者..

一般社団法人あぶくまエヌエスネット

代表理事 進士 徹氏

自然とのつながりが未来を拓く

私が福島県鮫川村（過疎中山間地域）で農業と自然学校を運営し始めてから、三十年が経過した。その間、様々な困難があったが、最も大きな出来事は「東日本大震災と原発事故」だった。この未曾有の災害の中で、福島の子どもたちの笑顔と元気を絶やしてはならない——そう決意して始めたのが「ふくしまキッズ」だった。全国の自然学校の仲間、公民館職員、自治体など、多くの人々の協力があり、この活動が続けることができた。自然学校のネットワークがあったからこそ、迅速に動くことができたのだ。

この経験を通じて、私は「つながりの力」を強く実感した。そして今、別の重要な課題が私たちの前に立ちのぼってきた。それは、農業と食のバランスの崩れだ。日本の米農家は存続の危機に直面し、食の安定供給に影響を及ぼし始めている。農に関わることは、単なる生産活動ではない。それは土と触れ合い、季節を感じ、命の循環を学ぶことでもある。私たちは、この大切な営みを次世代へ受け継ぐ責任がある。

しかし、現代社会の流れはそれに逆行している。

戦争、地球温暖化、ITの急速な発展——これらが実体験を奪い、自然との結びつきを弱めている。少子化も影響し、若者が自ら体験する機会が減少している。こうした社会のひずみの中で、自然体験学校は極めて重要な役割を果たす。実際に自然の中で学び、五感を使い、自らの手で何かを創り出す。このプロセスを経験することこそが、未来を生きる力になるのではないか。

今こそ、自然学校を通じて若い世代が新たな時代を切り拓くときだ。実体験の価値を再認識し、自然との関係を深めることで、人間が本来持つ生きる力を取り戻せるはずだ。私はこれまでの活動を通じて、多くの希望の光を見てきた。次世代の若者たちに大いに期待している。彼らが自然と向き合い、自ら考え、行動すること、新しい未来が創られるだろう。

一般社団法人あぶくまエヌエスネット
代表理事 進士 徹氏



横にいるのは、私の娘みたいな...彼女は今、岐阜県のモリノスのスタッフとして自然の環境を活かしたフィールドとプログラムをこの施設に遊びに来た小さな子ども達と関わる仕事をしています。彼女の原点は、小3のときから私の所に長期の休みになると参加してくれました。大学生になってボランティアで、子どもたちの前に立ってリーダーをやってくれたり!! 凄いパワーのある娘に成長してくれました。



Marumimi

ミニマルCMS/ホームページプラットフォーム/ECサイト/データベース構築

編集コラム 沖縄から波紋を広げる

走林社中 小林 政文
こばやし まさふみ



奄美・沖縄ガイドネットワーク

▼平和を願う地から

『沖縄の地を中心に平和の波が広がりますように』平和祈念公園から海を見下ろす場所にあるモニュメント（右下の写真）にはそんな意味がある。と知ったのは6月中旬の奄美・沖縄ガイドネットワークのリアルミーティング時に仲間の通訳ガイドから学んだことだ。平和を祈念する地からの願いを改めて胸に刻めた。

何か大切なものを得るため、守るためだと思っ
て戦ってきた戦争で最後に気づいたことは一人ひとりの『命こそ宝』。守るべき一番大切なものだったということ。

人それぞれが持つ様々な価値観に翻弄されるような世の中だが、主語を国や世間などと広く捉えず、一人として考えた時の大切なものをそのままに生きられたらいい。そう考えた。

▼地域版『走林社中』

自然体験活動団体の活動から日本のよりよい姿を構想するという目的を達成するために走林社中は人材と、各地の団体の緩やかな繋がりがこそ、要であると考えている。

私もそれがとても大切だとコロナ禍により一層感じ、2021年6月に奄美・沖縄ガイドネット

クを仲間たちと立ち上げた。

琉球弧である奄美大島から沖縄本島の向こう、八重山までの広範囲は自然史的にも一つとしてくくられてきた経緯がある。

その地域のネイチャーガイドや通訳ガイド、マリニンストラクター、民泊指導者、旅行添乗員、バスガイド、地域コーディネーター、観光協会、マーケット、YOUTUBEなど観光に関連した様々な最前線にいる実践者と集い情報交換することを目指した。

▼集うことのメリット

『顧客満足度UP』
参加者に次の目的地を提示し、彼らのニーズに答えやすくなること。

『共創』

様々な立場や業態の我々が集うことで大きな事業やこれまでできなかったようなこともできるようになること。

『アップデート』

情報交換をすることで最新情報を掴むことができ、事業に活かすことができること。

『チューニング』

地域が目指す環境保全、振興に共感できる仲間が確認できること。

私たちは対話による交流を月に一回重ねてきてい

る。

▼誰もが先駆者である

これらを重ねていければこれまでなかったような観光イノベーションのプラットフォームになっていくのだと考えている。

知り合うことを第一目的としながら、我々が仲間となり、業界となり、最前線の実践者として琉球弧の新たな時代・観光をつくっていく先駆者となっていく。

かつての先輩たちが創ってきた道と同じだ。残された轍を辿りながらさらに切り拓いていく。

そうしながら、今の自分を守ってくれている身の回りにあるような平和や自然、世界を残していきたい。

▼小林 政文 こばやし まさふみ

ホールアース自然学校沖縄校

がじゅまる自然学校 代表

奄美・沖縄ガイドネットワーク

共同運営者

<https://www.facebook.com/group>

[s/4161037217263637/?locale=ja_JP](https://www.facebook.com/group/s/4161037217263637/?locale=ja_JP)



編集後記

HAMON プロジェクトメンバーより



徳田真彦【三重・大阪】

家族でアンパンマンミュージアムにいきましたが
子どもがアンパンマンよりもバイキンマンが好きそうでした。
なんかわかる…笑

oooooooooooooooooooooooooooo



小林政文【沖縄】

セミの鳴きはじめてさえ、間に合わなかったくらい
梅雨明けが早かった沖縄。
最近は夏らしくなってきました！

oooooooooooooooooooooooooooo



森本弘太【福岡】

今年もサマーキャンプの季節がやってきました！
毎年いろいろなドラマが生まれるので、今からとても楽しみです。
しばらく息子と会えないのが寂しいですが…父ちゃん頑張ります！

oooooooooooooooooooooooooooo



小澤潤平【東京】

夏が始まりますが、すでに真っ黒に日焼けをしている7月はじめ。
海、山、川、沢、いろいろなフィールドで子ども達と遊ぶぞ！

oooooooooooooooooooooooooooo

編集長より

谷 慶子【三重】

全国の同志と繋がることのできる「HAMON」プロジェクトに携わらせて
頂き、アッという間に3年が経ちました。HAMONを通じて、「自然と生きる
人」の熱い想いに触れ、活動を知り、刺激を頂いてきました。

今号から、小澤さんからバトンを引き継ぎ、編集長を拝命いたしました。
電子ジャーナル…文章は好きですが、デジタルが苦手です。

老眼が入ってきた目にムチ打ち、微力ながら頑張りたいと思います。

プロジェクトメンバーの皆さんは、業界の第一線で活躍されており、
HAMONの編集は仕事ではなく、『志事』として関わってくださっています。
想いで繋がる心強い仲間と共に、これからも、『自然と生きる人』の多様な
活動を紹介することで、更なるHAMONを拡げていきたいと願っています。

最後に、取材・取材先としてご協力頂きました皆さま、ご寄稿頂いた
皆さまに心より感謝申し上げます。今後とも、応援宜しくお願い致します。

oooooooooooooooooooooooooooo

素敵な夏を
お過ごしください



走林社中
soulin2017.net

発行人：桜井義維英

発行年月日：2025年7月16日 第12号

編集：谷慶子、徳田真彦、小林政文、森本弘太、小澤潤平

次回13号の発行は、10月16日を予定しています

